

子ども食堂は大繁盛だよ

カレッジ卒業生が奮闘

兵庫区 「なかみち・こみち」

▼福祉センターの食堂でカレーにぱくつく子供たち

皆さんカレーができましたよ。さあ、一緒に食べようね。いただきまーす——。午後5時、スタッフのおぼちゃんの掛け声で、34人の子供たちが一斉にぱくつきます。ここは兵庫区の中道地域福祉センターにある食堂「なかみち・こみち」。リーダーの島村千恵子さん（健福21・淡河在住=写真）が東奔西走して行政とかけあい、場所を借り、スタッフを集め、資金の目途をつけて、1年前にオープンしたばかりです（7月7日）。

この日のメニューはカレーとサラダ。子供は無料ですが、大人は300円。保護者や一般の人でも利用できるのも、取材の私たちが食券を買ってお相伴にあずかりました。

食堂の”営業”は毎月1回。スタッフは島村さんの仲間や食文卒業生、SGS大学院、兵庫区会などから20人ほどが、ボランティアとして協力しています。

事前にメニューを考え、食材を調達し、調理してテーブルに並べるまでざっと3時間。センターの2階に児童館があり、遊び疲れた子供たちが、どやどやと降りてきて「お腹空いた！ 今日のメニューは何やの」。ガヤガヤ、ワイワイと楽しい食事タイムが続きます。食堂の片隅ではアトラクションもあり、毎回、KSCのマジッククラブやお笑い隊、歌声グループが賛助出演してくれます。この日は木工グループが工作を教えていました。

島村さんが食堂を立ち上げた動機は、「今の世の中、子供の貧困を放っておけない」という強い信念があったから。カレッジのグループ学習も同じテーマに取り組んだ。

一番の悩みは？ 「食材の調達かな」。大半を寄付



に頼っており、KSCの野菜作りグループ、元町の商店、コープ……いろんなところへ声をかけ協力してもらっているが、入手できる品物や量が前もって掴めないのも、メニューを計画的に作るができないのがつらいという。

衛生面は？との質問には「コープサークルに入っていて、指導を受けていますから大丈夫ですよ」と、調理担当者。ただ、調理器具は保管場所がなく、毎回持参しなければならぬのが煩わしい。

資金的にはさらに厳しい状況で、助成金15万円と寄付だけ。会場費を払うとスタッフの交通費も殆ど出せないのが実情だという。それでも、メンバーの意欲と士気は高い。月1回とはいえ、2、30人のスタッフを動かし、4、50食を作るのはそう簡単ではない。島村さんにかかるプレッシャーは、かなりのものだろう。

スタッフの島村評は「エネルギーで実行力がすごい。尊敬できる人ですよ」。異口同音の反応が返ってきた。ご本人は「おいしかったよ、と子供たちが言ってくれるのが一番うれしい」と、にこやかな口ぶりでした。

（取材 南形徹・14生環）

ボランティアの現場 ①

功労賞 土井・佐伯氏を表彰

30年度の功労賞にノミネートされた個人8人・グループ2団体の表彰式が5月26日、グループ〈わ〉の総会後に行われ、北区会推薦の土井昭政（国際10期）、佐伯義昭（国際8期）両氏も晴れやかな表情で水町理事長から表彰状と記念品を受け取りました。2人とも特別支援に長らく携わり、区会長も務めてきました。

土井氏は「特別支援で小さい子供たちと接していると、学ぶことが多い。長年やってきてよかったが、このほど80歳で”クビ”になってしまったのが残念。区会の方は、運営委員がよくやってくれて感謝している」と話しています。

佐伯氏も「私も特別支援は 孫に接するような気持で続けてきた。子どもたちが卒



業の時、手紙をくれ、とても嬉しかった。区会運営は地域が広いので、イベントをやる際に人集めに苦労したことを覚えている」と感想を述べています。=表彰される土井さん⑧と佐伯さん

外国人墓地巡りよかったよ



の足跡に思いを馳せながら、1時間余り楽しく散策しました。

参加者は「近くに住んでいるのに、訪れる機会がなかった。先人が眠る墓地を見学し、その

足跡を偲ぶことができよかった」と感想を話していました。（担当 木田育義）=写真=⑧無縁墓地の説明を聞く。⑨堺事件で亡くなったフランス兵の慰霊塔

春の歴史ハイク、34人参加

北区会の第4回歴史ハイクは5月6日、徳川道一天王谷越一再度越一再度公園一外国人墓地のコースで行われ、34人の参加者がありました。旧街道には、旅人の往来の安全を祈願したと思われる地藏尊や道標などが今も残っており、往時の面影を偲ぶことができました。再度公園にある外国人墓地は、約14haの広大な敷地に、神戸の近代産業に貢献のあったE. H. ハンター、神戸の洋菓子の礎をつくったF. D. モロゾフ、フロインドリーブら約2,800柱が眠っています。墓苑のガイドさんの案内で神戸の歴史と、先人

北区会が新人歓迎会

北区会に新しく入会した新人の歓迎会が5月30日12時30分から、たんぼのレストラン、カサブランカで開かれ、例年より多い12人が参加しました。鬼村信行幹事から北区会員が426人になったことや、今後の活動について「協力をお願いしたい」との挨拶があり、昼食をともにしながら、にぎやかなひと時を過ごしました。